



研究部会報告

●待ち行列●

●第13回

日時：1985年6月22日(土) 14:00~17:00

場所：東京工業大学(情報科学科会議室) 出席：34名
テーマと講師：

- Q13-1 待ち行列網解析システム「蟻塚」の開発(米田 清・東芝) 一分散処理システムの性能評価のためのツールを、待ち行列網の近似計算法のひとつである平均値解析法を用いて開発した。
- Q13-2 マルチメディアを扱う通信処理装置の蓄積転送方式(大村弘之・NTT横須賀通研) 一通信メディアの変換を行なうシステム概要説明と所要メモリー量の近似計算の報告。
- Q13-3 Aggregation Methodについて(高橋幸雄・東北大) 一閉塞の生じる直列形待ち行列モデルを近似計算する分解計算法の考案と数値実験結果の説明。

●第14回

日時：1985年7月20日(土) 14:00~16:30

場所：東京工業大学(情報科学科会議室) 出席：20名
テーマと講師：

- Q14-1 Vacation timeをもつ $M[X]/G/1$ 待ち行列について(馬場 裕・中部大) 一ビジューピリオドの終了後、サーバが vacation に入る集団到着モデルを補助変数法により解析した。
- Q14-2 集団到着即時・待時混合複数サーバモデル(高橋敬隆・NTT武蔵野通研) 一バッチポアソン到着、指数分布保留時間の上記モデルを解析した。
- Q14-3 交換処理の待ち行列モデル(住田修一・NTT武蔵野通研) 一交換機制御系における周期処理モデル、プロセッサ間通信モデル等の紹介。

●意思決定のための会計情報●

●第19回

日時：7月20日(土) 13:00~16:00

場所：慶応義塾大学ビジネススクール 出席者：10名
テーマと講師：

- (1) 値引きによる商品在庫の削減と税引後キャッシュフロー利益(金沢工業大学：今沢明男)
- (2) AHP (Analytic Hierarchy Process) の紹介

(慶応義塾大学：福川忠昭)

(3) 連結利益計算システム

(ソニー・マグネ・プロダクツ(株) 實山秀明)

●政策科学(関西)●

●第3回

日時：7月20日(土) 14:00~16:30

場所：芦屋大学福山記念館新館2階、ビデオシアター室 出席者：17名

テーマと講師：

- (1) 「マスタープラン策定のための支援モデル」

本荘雄一氏(神戸市市長総局調査統括課)

- (2) 「中国を訪れて」(スライド上映) 本荘雄一氏

内容：神戸市では、昭和48年度から計画策定過程における合理的な意思決定を支援するマンマシン(コンピュータ)システムとして、地域基礎データ提供機能、将来予測、効果予測提供機能、評価情報提供機能を有する地域情報システムを開発し、計画策定に活用している。その概要と適用事例、および今後の拡充方向について説明された。

この地域情報システムに、新神戸市総合基本計画の改定を支援するため「神戸社会経済シミュレーションモデル」が追加された。このモデルは政策課題にもとづいて、人口・経済をはじめ7つのセクターから構成されている。各セクターの構造と予測結果が報告された。

後半は氏が神戸市と友好都市である天津市の統計局の招待を受けて神戸市統計業務団の一員として中国を訪れた際、撮影したスライドによる天津、北京、上海市の紹介である。

●政策科学●

●第18回

日時：6月15日(土) 14:00~17:00

場所：三菱総合研究所 出席者：13名

テーマと講師：「戦略予算」石川 昭(青山学院大学)

世界の中の日本というグローバルな立場に立って、日本の国家運営・企業経営・日米問題について、各種のデータを示しながら論じ、日米の活力の源泉を比較した。世界を救ったり、日本を救ったりするための提言は、これまでも数多く出されているが、その実現性には大いに疑問がある。これは、政策科学で言うところのインプレメンテーション(実施段階におけるダイナミックな働きかけ)に問題があるからである。戦略を実現するための有効な制御変数として予算統制を行なうこと(戦略予

算)は、国家・企業レベルにおいて十分役立つツールであって、これにより、より公平に、より有効的に、より創造的に、資源割当が実施できると述べた。

石川 昭『戦略的予算管理』(昭60, 同文館)

● 第17回

日時: 7月20日(土) 14:00~17:00

場所: 三菱総合研究所 出席者: 13名

テーマと講師:

①「汎関数の停留値問題の新解法と応用について」今井良夫(上智大学)

国家的規模の資源配分問題(防衛支出, 年金, 経済成長, 税収, など)を論じるモデルを取扱おうとする際には, しばしば, 積分関数を最大にするという必要性に直面する。その場合に役立つツールとして, できるだけ計算量を少なく抑えた新解法を考えついたので, このエッセンスを説明した。

この方法では, マイコンで実用的な計算を行なうことができ, しかも無限区間モデルでも取扱えるので, あえて有限区間とするための成長目標を入力する必要がなくなった。応用例として, 防衛支出の拡大プロセスをとりあげ, 長期的傾向を把握した。

[今井良夫: 防衛支出の拡大プロセスの研究, 日本経済政策学会大会42 (1985-5), ほか]

②「日本の産業政策について」下山 満(ソニー)

戦後の日本の経済成長の貢献要因の1つは, 研究開発・技術革新である。これに対する政府の助成政策については, 賛否両論相譲らないが, ともかく産業技術促進のための政策としてとってきたものは, 補助金, 税制上の優遇措置, 低利息融資のほか, 国公立の研究機関・特殊法人の設立, 鉱工業技術研究組合制度, および表彰制度であった。『小宮隆太郎ほか: 日本の産業政策(1984) 東大出版会』を引用し, 今後の方向を探ってみた。モノに対する融資などの各種助成政策はあっても, ソフトウェアに対しては未だ促進政策は整備されておらず, ソフト化経済へ脱皮するため, その構造的変化に呼応した政策転換と具体化が望まれる。

● 日本システム科学 ●

(研究グループ)

● 第5回

日時: 昭和60年7月6日(土) 14:00~17:00

場所: 八丁堀・東京都勤労福祉会館 出席者: 8名

テーマ: 「システム科学のためのテトラレンマ立体まんだら思考法」の第2回

前回は主にシステム科学のための仮説を18ばかり説明したが, 今回は「考えるとはどんなことか?」と「考えるためには, どのようなことをしたらよいか?」「レンマとは何か?」などについて, 思考することによって生じる「現象」とか「行動」について, 話しを展開してみた。これは従来のシステム科学では, あまりとりあげられなかった部分である。

● D P ●

(研究グループ)

日時: 7月13日 14:00~16:00

場所: 蔵前工業会館 出席者: 5名

発表: The Bellman Continuum に出席して, 杉山博(阪大工学部)

動的計画法の創始者 R. Bellman の学派を維持し, 科学と技術への R. Bellman の影響を保存発展させるために The Bellman Continuum が, 1985年5月29日~31日ミンガン大学で開催された。日本からは杉山博氏(阪大), 岩本誠一氏(九大)が出席発表されたので, ご報告いただいた。15件ほどの発表が行なわれたようで, 今後のDPの将来を占うのに貴重な機会であった。

次号予告

特集 建設・建築のOR

立地評価システムの開発 田中 敏夫
病院建設計画と診療圏分析プログラム

水田 恒樹・池原 良忠・小橋 哲朗

長大橋梁の経済性比較 大塚 久哲
建設工事用車両の運行シミュレーション

中沢 喜久雄

事例研究

駐車場のレイアウト 福田 有・小沢 正典

研究レポート

反り屋根の形 柳井 浩・岡村 潔